

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 2008年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	195000112
法人名	(株)ワークサポート
事業所名	グループホーム ふれやか ことぶき
所在地	北見市高栄西町7丁目2-2 (電話) 0157-57-3663

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年4月4日

【情報提供票より】(20年 3 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 4.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	17,760円(10~3月暖房費4,200円)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	367 円	昼食	367 円
	夕食	367 円	おやつ	52 円
	または1日当たり		1,153 円	

(4) 利用者の概要(2月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.1 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とまべちクリニック ・ みやまクリニック ・ 高栄歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北見市中心部より北西部に位置し、近くには小学校・公園・交番等がある住宅街に立地した2階建てになっています。ホームの隣には商店があり、利用者が買い物を楽しみ、馴染みの関係を築いています。居間は大きな窓から入る陽ざしと白い壁が明るく落ち着いた安らぎを感じさせる雰囲気になっています。食事は配食(昼食・夕食)を利用しており、職員と一緒に利用者は交代で食材をとりに行き、そのなかで、ドライブを楽しみ・気分転換の支援としています。職員は利用者一人ひとりのペースや思いを大切に、「穏やかに一日が楽しかった」と思えるようなケアを心がけています。開設して1年がたち、さらに、地域との関わりを深めていけるかが検討課題になっていますが、新しい理念を掲げ地域の中でその人らしく穏やかに笑顔で暮らすことが出来るように、家族・地域と共に支えていくホームを目指しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の4月に開設しており、今回が初めての評価となっています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員に自己評価及び外部評価の実施する意義についてわかりやすく伝えていきます。職員はわかる項目について記入し、本社代表、管理者、介護主任等で検討し、管理者が1つにまとめ、作成しています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>初めての運営推進会議を2月に開催しています。地域包括支援センター代表、民生委員、地域住民の代表、市職員、利用者、家族、スタッフ等で構成されています。(地域住民代表、家族等は都合により欠席)ホーム側から理念、グループホームとは、利用者の状況等について説明がされ、メンバーからは構成メンバーのあり方、施設への要望等が出され、スタッフ代表より今後の取り組みに対する説明がされています。家族には作成した報告書を配布しています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置はされていますが、実際の利用はされていません。家族の訪問時を大切な機会として捉え、利用者の様子を伝えたり、職員は明るく接し、話しやすい雰囲気づくりを工夫し、思いをくみ取り、サービスの向上につなげています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設時は地域へ挨拶に回っています。町内会には加入はしていますが、地域の行事に参加するまでには至っていません。日々の外出時は近隣商店、地域住民へ明るく挨拶をし、声かけすることを徹底しています。利用者が一人で外出した際、商店の方が教えてくれる等地域からの理解も広がって来ています。冬場は隣家の除雪を手伝う等し、地域との交流を深め、理解を得るよう努めています。4月の冬あか一掃運動には参加を予定しています。</p>

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と話し合い、これまでの理念を基盤に新しい理念をつくりあげています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所、休憩所に掲示がされていて、管理者は日々のミーティング、申し送り等で話し、職員は常に理念に基づき同じ認識をもって支援するよう心がけています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、散歩時には声かけ、挨拶を交わし、交流を深めるよう努めています。ホーム便りを作成し、回覧を予定していますが、地域の一員として、地域の行事へ参加するまでには至っていません。	○	今後は地域行事に積極的に参加し、地域の方との交流、理解を深め、ホームに気軽に立ち寄ってもらえるような関係づくりを築くことを期待します。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の実施する意義については、管理者は職員にわかりやすく伝え自己評価に取り組んでいます。評価の結果については職員、運営推進会議等で報告、話し合いをし、改善に向けて取り組む姿勢が見られます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回目の運営推進会議を開催しています。ホーム側からは、理念、施設の概要、利用者の状況、行事予定等について報告がされ、メンバーからは構成メンバーのあり方、ホームへの要望が出されています。次回は外部評価の結果報告をかねて開催を予定しています。	○	地域の理解と支援を得るための貴重な機会として、2か月に1回の開催を望みます。また、外部評価についても結果報告だけに終わらずに、課題等について活発な意見交換をし、サービスの質の向上に活かしていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の空室状況、利用者の経過状況、書類の書き方等、必要に応じて連絡、相談をしています。また、市の担当者以外にも社協・地域包括センターと相談しています。現在、利用者4名の権利擁護を申請しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問頻度が多く、家族の訪問時に日常の様子(スナップ写真等)や近況報告をし、金銭管理についても確認をし、サインをいただいています。また、遠方の家族には出納帳、生活状況、写真、介護計画書等を郵送にて報告しています。利用者の状況によりその都度、家族に報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、実際の利用はなく、家族の訪問時に利用者の近況報告と共に家族の意見、要望を引き出す工夫、話しやすい雰囲気づくりを心がけています。要望については話し合い、運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族の不安を最小限に抑えるよう努めています。異動や離職があった場合は利用者のダメージを防ぐため、在職の職員や引き継ぎの職員のケアによりフォローしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規程の中で、研修の確保についてうたわれていますが、職員の離職、勤務体制等の問題もあり研修に参加しにくい現状にあります。研修に参加した場合には全体会議で報告をし、報告書の回覧等で情報の共有を図っています。	○	職員の離職等を最小限に抑え、全職員が段階的、計画的な研修の機会を確保し、スキルアップを図り、ケアに活かせるよう取り組むことを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会等には積極的に参加しています。また、他グループホームとは連絡を密にとりあい、交流を深め、サービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得したうえでサービスを開始できるよう事前に家族と一緒に来所しています。また、来所できない方には管理者が訪問し、十分な説明がされています。職員は利用者の状態等を把握し、雰囲気に馴染めるよう声かけ、見守りに努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の思い、不安、喜び等を知ること努めています。利用者から教えてもらうこと(料理、歌等)また、そのような場面を多くもてるように心がけて、常に感謝の言葉をかけ、共に支えあう関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の支援の中で声かけ、利用者の話には根気よく耳を傾け希望や意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の状態、気付いたことをミーティング等で話し合い、モニタリング、カンファレンスを実施し、介護計画案を家族と話し合い、利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については、定期的(3か月に1回)の見直しを行うと共に、家族からの要望、利用者の状態の変化によっては必要に応じ利用者の状態にあった介護計画に変更しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院は基本的には家族対応ですが、状況に応じて受診、外出支援、入退院送迎介助等の必要な支援は柔軟に対応しています。また、冬場は隣家の高齢夫婦の雪かきの手伝いをしています。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他に、利用者はかかりつけ医での受診になっており、利用者が適切な医療が受けられるように支援しています。受診時の結果については情報の共有を図っています。また、協力医以外(玉越医院)に必要なに応じて往診してもらえる体制が出来ています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理や急変時については、家族・医師・職員と方針の共有はされていますが、重度化した時、終末期の対応については、職員・家族等と話し合いがされていません。意思確認書の作成を検討しています。	○	早い段階から職員・家族・関係者全体で話し合う機会をつくり、終末期の対応について、全員で方針を共有できるように検討することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけないよう、さりげない声かけや対応に配慮しています。また、個人記録・書類等の保管場所は確保されており、個人情報保護法の周知徹底を図っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズム等の大まかな決まりはありますが、利用者のその日の体調・状態に配慮しながら起床・食事・就寝の時間、喫煙等、一人ひとりのペースを大切に柔軟に対応し、思いに添った支援を心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食は配食のため、職員は常に一緒に楽しく食事がとれるように心がけ、利用者の有する力や意欲を引き出す工夫(盛りつけ・おやつづくり・配膳・茶碗拭き等)をしています。昼食・夕食前には、嚥下体操を兼ねて大きな声で歌を歌っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を優先し、入浴拒否に対しては職員の声かけ等の工夫をしています。利用者の状況等によってシャワー浴・足浴・清拭等で対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴が活かせるように、声かけ等で利用者が主体的に関わることが出来るように支援しています。(買い物・パンづくり・カラオケ・ガーデニング・家庭菜園等)また、外気浴、気分転換が出来るように玄関前にベンチを設置しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・ドライブ等、利用者の状況や希望に応じて可能な限り外出の機会を設け支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけていません。職員は利用者のその日の表情・態度等をきめ細かくキャッチするように努めています。地域の交番へは連絡がされており、安全が確保されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一部の職員は、消防の協力を得て、応急手当・蘇生術を受講しています。現在、運営推進会議で協力が得られるよう働きかけていますが、避難訓練は実施されていません。	○	いつ起こるかわからない災害については、実践を想定した十分な訓練が必要と思われます。地域住民への協力を得られるよう働きかけ、早急に消防の協力を得ながら、避難訓練を実施することを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量については、記録がとられています。一日あたり、1000cc以上の水分を目標としており、不足と思われる場合は、ゼリー・果物等で補っています。また、利用者の状況に応じて摂取しやすいように、工夫(とりみ・おかゆ・嚥下体操等)しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生会・行事等の写真を貼ったり、観葉植物を置くなどし、居心地の良い空間になるように配慮しています。利用者が日常的にストレスを感じないように努めています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の今まで使った馴染みのもの、好みものを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫をしています。		